

## 01

## 青年海外協力隊が菅首相に帰国報告

6月14日、「内閣総理大臣主催青年海外協力隊帰国隊員報告会」が総理官邸で開催されました。当日は、全国から帰国隊員約150人が招かれ、菅直人首相、仙谷由人官房長官、岡田克也外務大臣をはじめ、「日本の国際協力」特に青年海外協力隊の活動を支援する国会議員の会」のメンバーである議員約30人から激励を受けました。

菅首相は冒頭のあいさつで、「協力隊のような若者による活動は、日本の国際協力の強み。帰国後も、その経験を存分に発揮できるような場をつくってほしい」と述べました。さらに仙谷官房長官も、「途上国で感じたことを、日本でも伝えてほしい」とエールを贈りました。

未希子さん(2007～09年・ポリビア/村落開発普及員)、窪田保さん(04～06年・モザンビーク/理数科教師)が、それぞれの活動について報告。「外国人だからできることも必ずある」、「小さな失敗の積み重ねは貴重な財産」などと話し、今後も日本で国際協力を続けていく決意を示しました。その後、帰国隊員との懇談の時間も設けられ、参加者は途上国での協力隊員の活動に興味深く耳を傾けていました。

最後に、緒方貞子JICA理事長が「これだけの方々に、協力隊事業を評価していただけるのはありがたい。これからも、『世界も日本も元気にするボランティア』をスローガンに、より効果的な事業を展開していきたい」と締めくくりました。



(上)出席者に激励のメッセージを贈る菅首相  
(下)岡田外務大臣と和やかに懇談する帰国隊員

## 02

## エジプト文化財「保存修復センター」が完成

年間約1000万人の観光客が訪れるエジプト。その観光の要にもなっている「エジプト考古学博物館」の老朽化に伴い、新たに「大エジプト博物館」を建設する事業が進められていますが、このたび、その一環で整備されていた「保存修復センター」が完成しました。6月14日の開所式では、12のラボ(研究室)と8つの収蔵庫などが公開されました。

開館から100年以上が経過し、施設の老朽化だけでなく、スペースが不足し、収蔵品の保存・修復・研究体制が整っていなかった考古学博物館。これを受けてJICAは、円借款による博物館の新設と、技術協力プロジェクトによる収蔵文化財のデータベース構築、保存修復技師の育成を支援しています。完成したセンターでは現在、JICA専門家の指導のもと、約120人の技師により、彩色木棺、動物のミイラ、石碑の保存修復処置や素材の解明などが進められています。大エジプト博物館の開館時に約5万点、最終的には10万点の文化財の展示を目指しています。

## 03

## 日メコン古都シンポジウム「未来へつなごう！ いにしえのきずな」開催

平城遷都1300年、ハノイ遷都100年、ビエンチャン遷都450年に当たる今年の6月22日、奈良市で日メコン古都シンポジウム「未来へつなごう！ いにしえのきずな」(主催・外務省)が開催されました。当日は、メコン地域5カ国(カンボジア、タイ、ベトナム、ミャンマー、ラオス)から古都・文化遺産保護に携わる関係者が来日し、文化遺産の価値を伝える教育、住民参加型の遺産保護や観光振興、それに対する日メコン地域間のネットワークづくりなどについて、日本人専門家らと意見を交わしました。

メイン会場の外では、外務省や奈良県、JICAなどがブースを出展。JICAは、タイ、カンボジア、ベトナムで行った世界遺産の保護活動や、各国での観光分野への協力についてアピールしました。



会場には地方自治体、文化遺産保護、観光分野の関係者など約100人が来場